



平和について考えよう

8月27日(水)Zoomで平和集

会を行いました。進行は、運営集会委員会の6年生です。「青い空は」の全員合唱の後、今年度もすぎの子文庫の皆さんに読み語りをしていただきました。タイトルは、『せかいをひとつにするケーキ：わすれていたたいせつなもの』。考えが異なる様々な国の子供たちがいさかいを経て、話し合い、考え、「ごめんなさい」「許してあげる」「思いやり」「だいすき」の4つが大切なことに気づき、世界に一つのおいしいケーキを作り上げるお話です。

私からも、「平和」は「絶対に戦争をしない」という強い決意や「平和を作っていこう」とするみんなの努力が必要なことや「幸せの4つのコツ」の「あなたらしく」に触れ、友達の「あなたらしく」も大切にしてほしいという話をしました。そのために、違いを認めることや相手の気持ちを想像すること、違いが気になるなら一緒に考えて話し合うことをしてほしい、と伝えました。

一人一人が自分と周りの人の「あなたらしく」を大切に、身近なところから平和な世の中を作してほしいと思います。



郷土の誇り「伊東玄朴」布芝居鑑賞(3・4年生)

医者・蘭学者伊東玄朴(いとうげんぱく)は神埼(かんざき)町仁比山(にひやま)の出身。14歳で漢方医学を学び、長崎でシーボルトに師事。13代将軍家定の奥医師、医官最高の法院にもなった人物。

わが国の近代西洋医学の基礎を確立するなどその功績は数多くありますが、最も有名なものは、種痘を導入し、当時、致命的な病気であった天然痘から多くの人々を救ったことです。この時代西洋医学は得体のしれないもので、牛痘種痘が本当に効果があるとは信じられていませんでした。しかし、玄朴の進言を聞き入れた鍋島藩10代藩主鍋島直正(なおまさ)が、我が子に種痘を打たせ成功。以後鍋島藩は積極的に西洋医学を取り入れていきます。この後、玄朴は種痘予防を広めるため江戸の医者と協力し、神田に西洋医学所(現東大医学部)を創設します。

佐賀県公式観光サイト「あそぼーさが」より

9月4日、竹の会(神埼の退職された女性教職員の方の会)の皆様、3・4年生に向けて、伊東玄朴の布芝居(大型紙芝居の布バージョン:竹の会の皆様の手作り!)をしていただきました。伊東玄朴の生涯が分かりやすくまとめられており、子供たちも集中して観ていました。鑑賞の後、竹の会の皆様から、大変褒めていただきました。それは、話の聞き方が全員よかったこと、話の意図を踏まえた感想がしっかりと言えたことについてです。伊東玄朴が高い志をもち、努力を重ねて偉大な業績を残したことを感じ取ることができた3年生、4年生。それをしっかりと感想として伝えることができ、感心しました。郷土にこのような素晴らしい偉人がいらしたことを誇りに、また後に続くように「仁比山っ子」も高い志と誇りをもち、頑張してほしいと思います。竹の会の皆様、ありがとうございました。

